資料６

小規模校のケーススタディ

ケーススタディの前提

○ケーススタディの目的

全市的な適正化の基準を考える上で，様々な地域の特性をどのように捉えるべきかを検討するもの。

→個別の校区について，具体的な対策を検討するものではない。

○対象となる校区の抽出の考え方

小規模校の特徴的な3つのケースに該当する校区(赤字は11学級以下の小規模校)。

都心部エリア	・・・ 舞鶴中(大名小，簀子小，舞鶴小)校区
周辺部エリア	・・・ 志賀中(勝馬小，志賀島小，西戸崎小)校区
団地開発エリア	・・・ 城香中(城浜小，香椎浜小)校区

1 - 1　大 名 小 学 校

1　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	計
児童数	(男子)	3	10	2	6	9	5	1	36
	(女子)	6	10	5	8	8	10	2	49
		9	20	7	14	17	15	3	85
学級数		1	1	1	1	1	1	1	7

(2)学校の沿革

明治　6年　開校

明治20年　橋口小，薬院小を分離

明治27年　橋口小，薬院小と合併

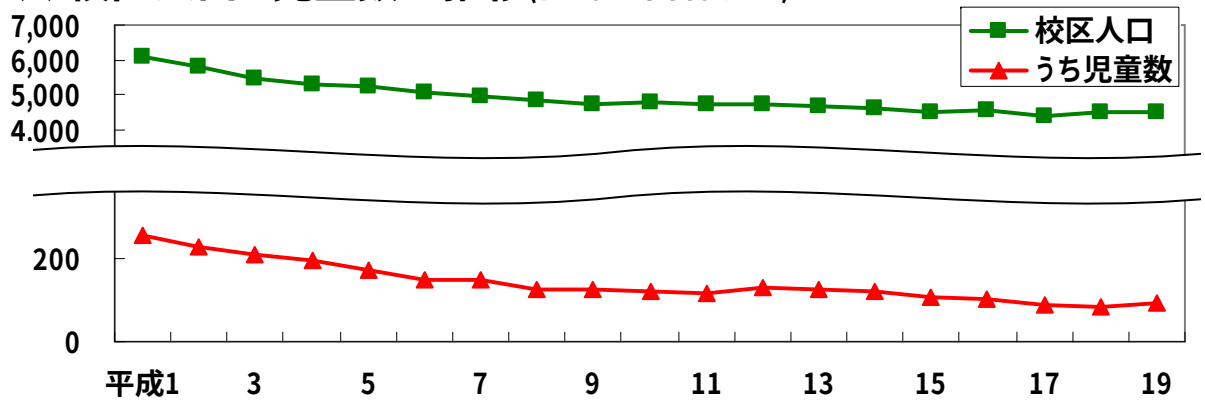
明治45年　簀子小を分離

昭和28年　赤坂小を分離

昭和35年　舞鶴小を分離

2　地域の特性

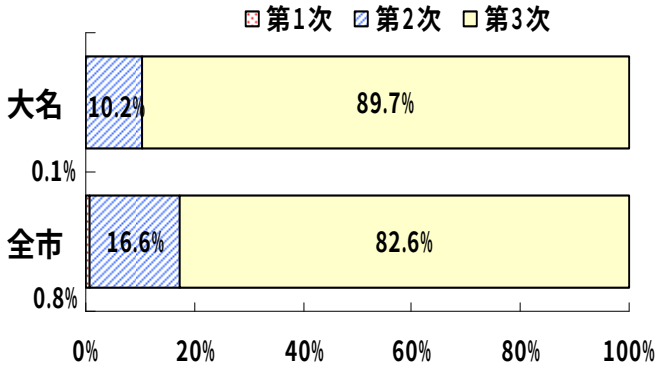
(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

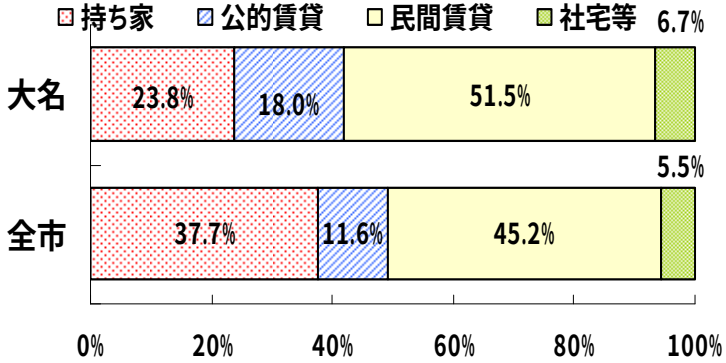


校区人口・児童数ともに減少傾向

昭和36年
(舞鶴小分離直後)
1,104名　22学級

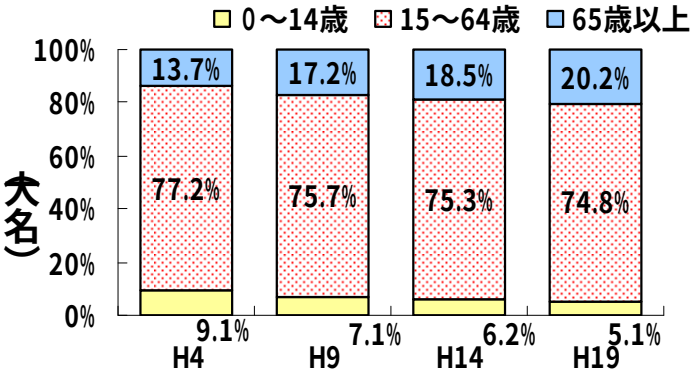
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

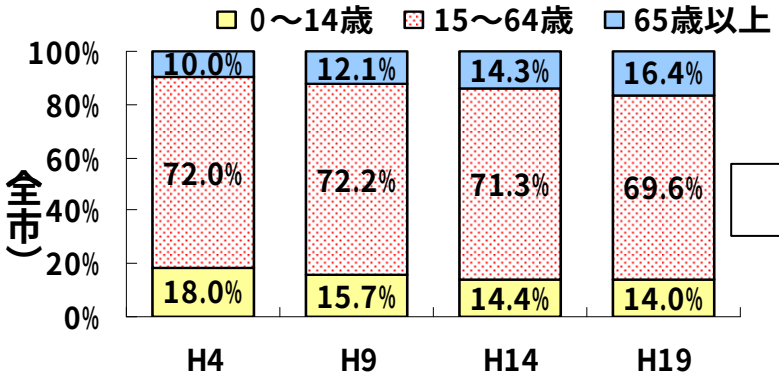




市全体に比べ，持ち家の比率が低い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体に比べ，少子化の傾向が顕著

3　小規模校の特徴 (学校ヒアリングから)

○ノートを全員分毎日見ることができるなど，クラス全員に目が行き届く。

○全職員が全部の児童を知っており，指導がしやすい。

○教員が少なく，習熟度別などの少人数指導ができにくい。

○修学旅行や社会科見学，卒業アルバムの作成などで保護者の負担が大きい。

（例えば修学旅行は，他校の1.5倍ほどの負担になる。）

○クラブ活動や体育の授業で，球技などのチームスポーツができない。

○クラス替えができず，人間関係の改善ができにくいので，いじめなどの問題には特に注意を払っている。

○地域と合同で運動会を実施しており，種目は他校と同じくらいあるが，一つ一つの種目が早く終わってしまう。

4　クラブ活動の状況

スポーツクラブ，和楽器クラブ，伝承文化クラブ，家庭科クラブ　　（参考）18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○地域合同運動会の実施　　○新天町子ども山笠に参加　　○自転車運転免許検定制度

○大名クリーン作戦　　○紺屋町子ども獅子祭り　　○中央区花いっぱい運動

○招待給食（地域の方を給食に招待し，共に食事をする）

○和室ふれあい活動(地域の方を講師に，お手玉，こま，剣玉等の昔の遊びを学ぶ)

○校庭開放（昼）実施

6　防災施設の指定状況

大名校区　収容避難所及び地区避難所

1 - 2　簀子小学校

1　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	(男子)	22	13	21	15	16	16	103
	(女子)	19	15	11	10	20	13	88
		41	28	32	25	36	29	191
学級数		2	1	1	1	1	1	7

(2)学校の沿革

明治45年　大名小より分離新設

大正元年　現在地に移転

大正 2年　当仁小学校区を一部編入

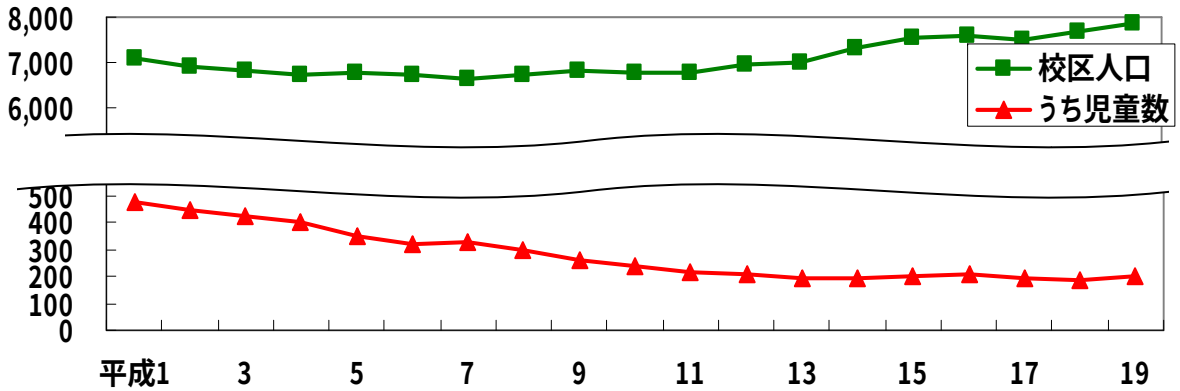
昭和28年　赤坂小新設のため一部分離

昭和35年　舞鶴小新設のため一部分離

昭和36年　校区の一部を当仁小･赤坂小へ分離

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

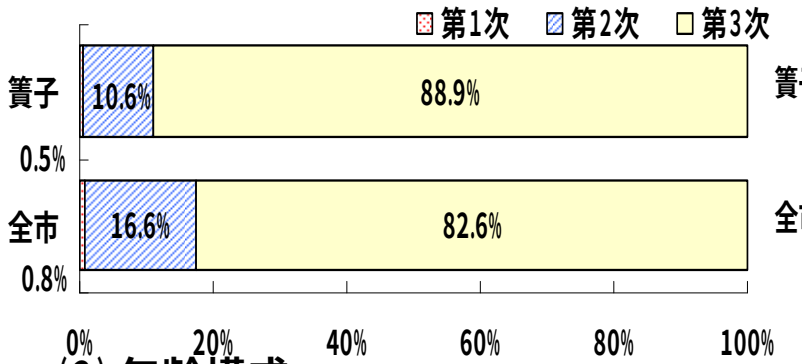


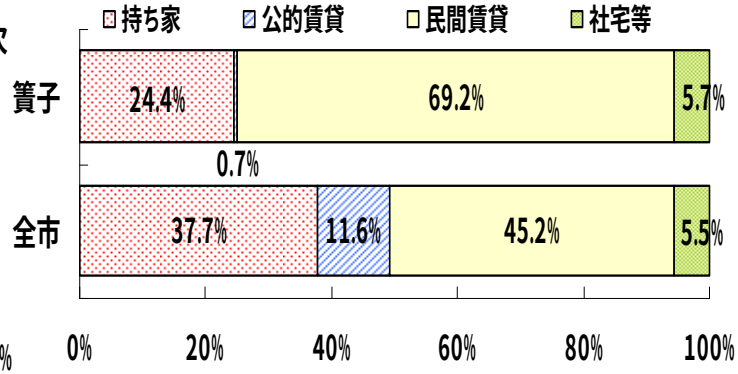
校区人口は増加しているが，児童数は横ばい。

昭和37年
(校区調整直後)

1,272名　27学級

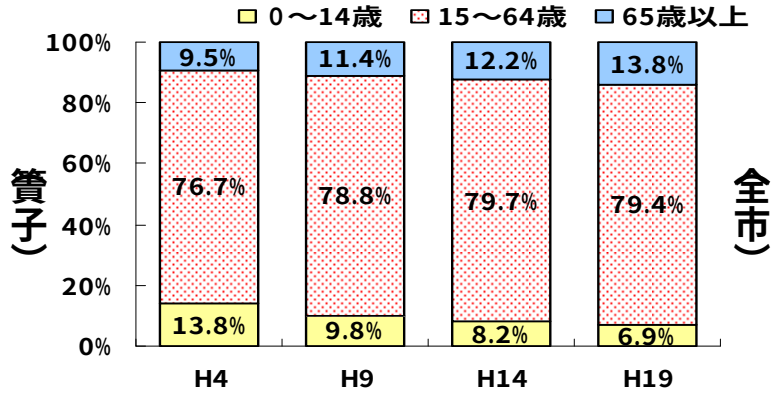
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

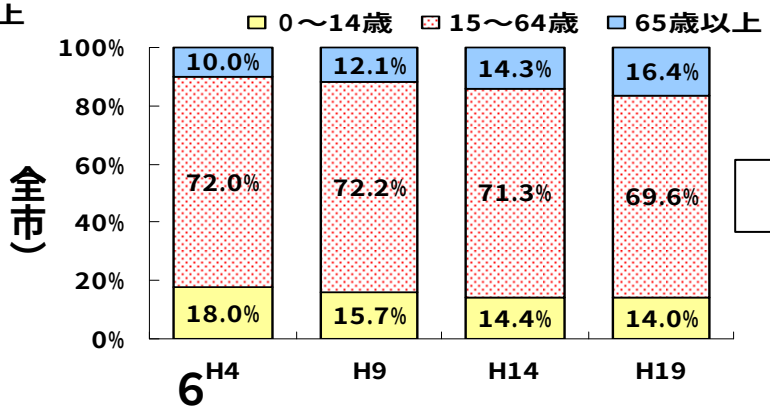




市全体に比べ，持ち家の比率が低い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体に比べ，少子化の傾向が顕著

3　小規模校の特徴(学校ヒアリングから)

○児童全員の雰囲気がよく見える。

○他の学年と合同体育をしたりして，人間関係を作れるよう工夫している。

○多様な関わりができるよう，毎年担任を変えている。

○小さい時から顔なじみの集団で，お互いのことを良く知っているため，他人に対しての表現力が育ちにくい。

○多数の校務分掌を受け持つ必要があり，職員にとってはいい経験になるが，負担が大きい。

○ＰＴＡ役員が決まりにくい。

4　クラブ活動の状況

卓球・バトミントンクラブ，家庭科クラブ，イラスト・絵画クラブ，

ボール運動クラブ，科学クラブ，音楽クラブ，

伝統遊び(囲碁・将棋等)クラブ，手話クラブ　　(参考) 18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○校区の慰霊祭に参加 (6年生のみ)　　○校区大運動会に参加　　○すのこまつりに参加

○民生委員等の地域の方を講師に，炊飯，餅つき，福岡大空襲等を学ぶ

○近隣にあるデイケアセンターを見学し，地域の方と交流

○体育館開放，校庭開放 (昼・夜) 実施

6　防災施設の指定状況

簀子校区　収容避難所及び地区避難所

1 - 3　舞 鶴 小 学 校

1　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

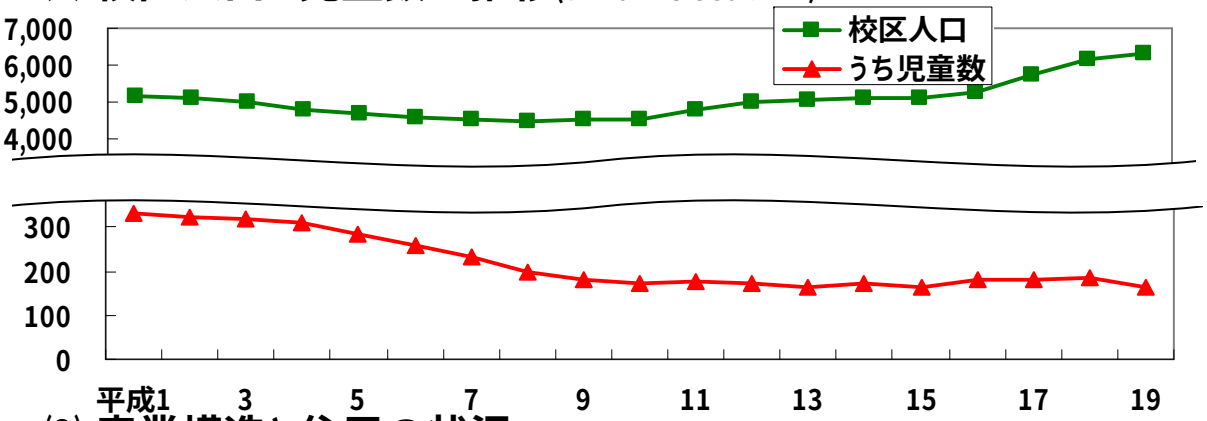
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	計
児童数	(男子)	15	11	11	6	19	9	4	75
	(女子)	10	12	12	16	17	15	1	83
		25	23	23	22	36	24	5	158
学級数		1	1	1	1	1	1	1	7

(2)学校の沿革

昭和35年　大名小･簀子小･赤坂小の一部を分離し開校

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

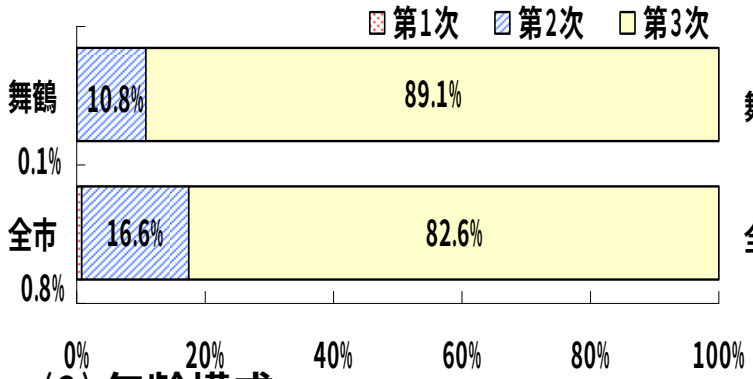


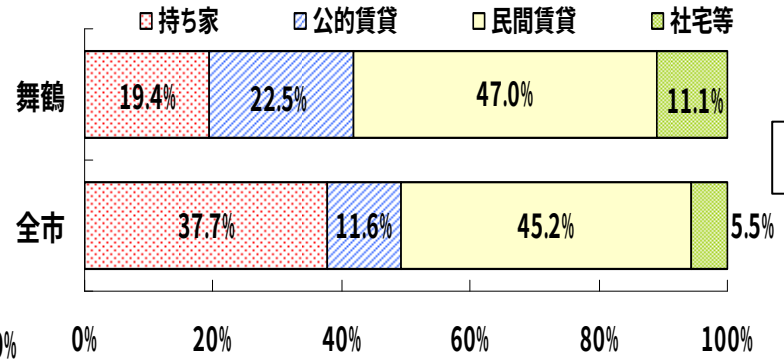
校区人口は増加しているが，児童数は横ばい。

昭和36年
(開校時)

1,072名　22学級

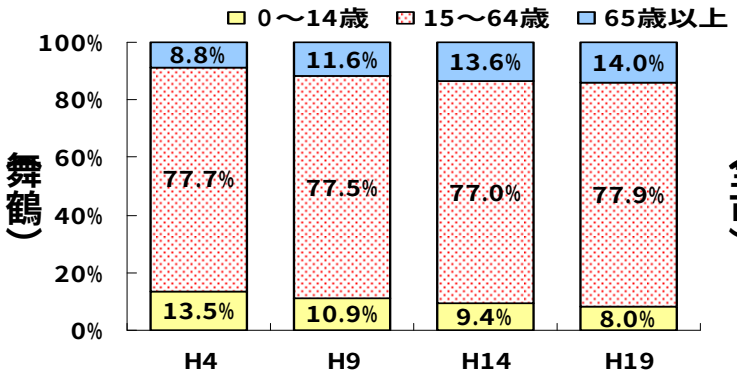
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

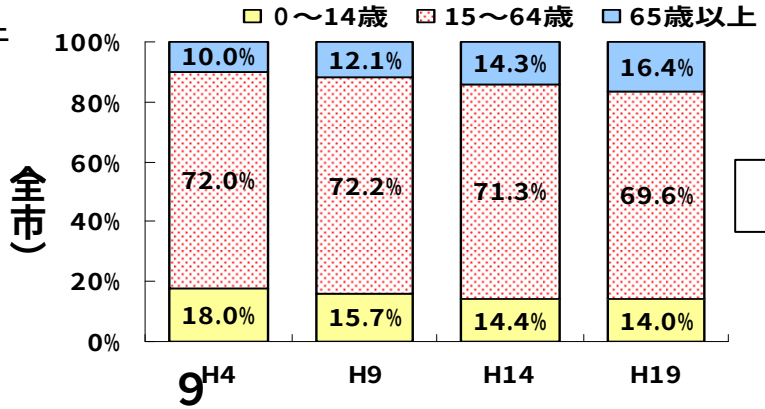




市全体に比べ，持ち家の比率が低い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体に比べ，少子化の傾向が顕著

3　小規模校の特徴(学校ヒアリングから)

○修学旅行，社会科見学，自然教室ではバス代を1校で負担できないため，他校と合同で実施している。

○各学年1クラスで，一人ひとりに目が行き届く反面，児童が他のクラスを見て，自分自身と比較することができない。

○体育では実施できる種目が少ない。

○クラブ活動の種類が少ない。

○人数が少ないため，学級委員や児童会役員が決められない。

4　クラブ活動の状況

理科･図工クラブ，家庭科クラブ，外国語クラブ，

パソコンクラブ，スポーツクラブ　　(参考) 18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○校区が主催する夏祭り，文化祭，運動会に参加
○校区が主催する餅つき大会，百人一首大会に参加
○舞鶴フェスティバルに地域の方を招待
○学校の人権参観に地域の方を招待
○体育館開放，校庭開放 (昼･夜) 実施

6　防災施設の指定状況

舞鶴校区　収容避難所及び地区避難所

１ - ４　舞 鶴 中 学 校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

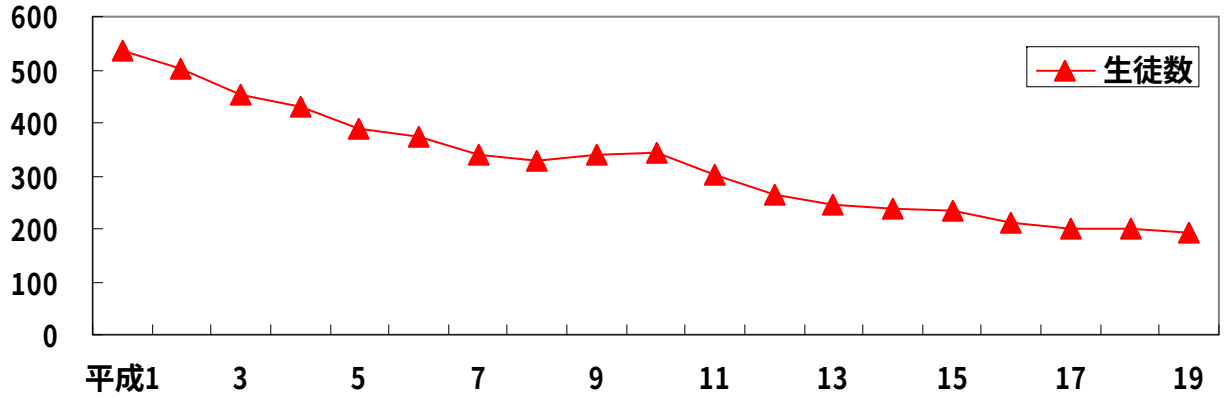
		1年	2年	3年	特学	計
生徒数	(男子)	42	30	42	15	129
	(女子)	33	30	22	10	95
		75	60	64	25	224
学　級　数		2	2	2	4	10

(2)学校の沿革

昭和22年　開校(現在の舞鶴小用地)

昭和35年　舞鶴小学校の開校に伴い，現在地(旧博多工業高校用地)に移転

2　生徒数の推移



3　通学環境等

校　区　面　積	3.34km²
最 長 通 学 距 離	2.5km(バス通学)
校 区 内 の 小 学 校	大名小，簀子小，舞鶴小

4　部活動の状況

サッカー (男子)，野球(男子)，卓球(男子)

バレーボール(女子)，バスケットボール(女子)，ソフトテニス(女子)

ブラスバンド，美術，放送，書道

(参考) 18学級規模の平均　：　18種類

２ - １　勝 馬 小 学 校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	(男子)	1	4	1	4	―	1	11
	(女子)	―	3	―	2	4	4	13
		1	7	1	6	4	5	24
学　級　数		1		1		1		3

※海っ子山っ子スクール対象児童を含む。

(2)学校の沿革

明治　9年　開校

昭和　6年　弘地区が志賀島小へ編入

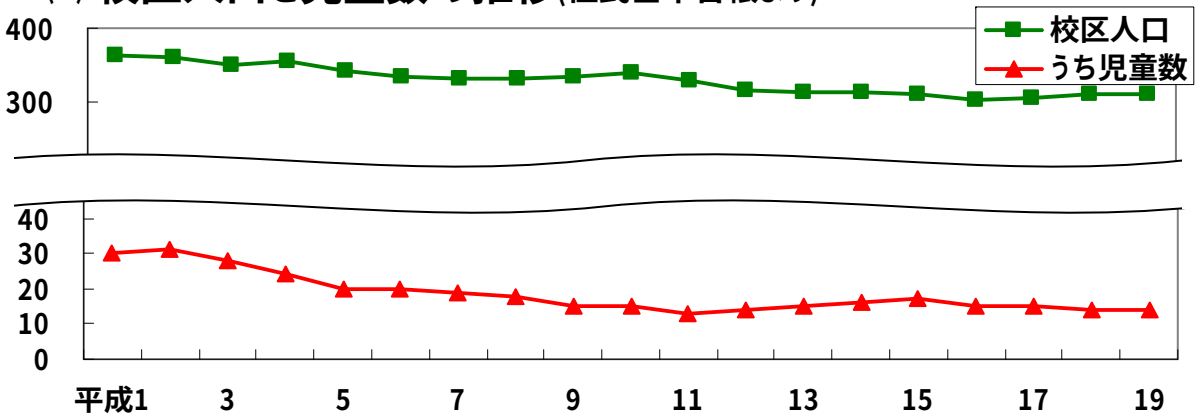
昭和46年　志賀町の合併により，福岡市に編入

平成17年　小規模特認校制度「海っ子山っ子スクール」開始

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

※児童数は海っ子山っ子スクール対象児童を除く。

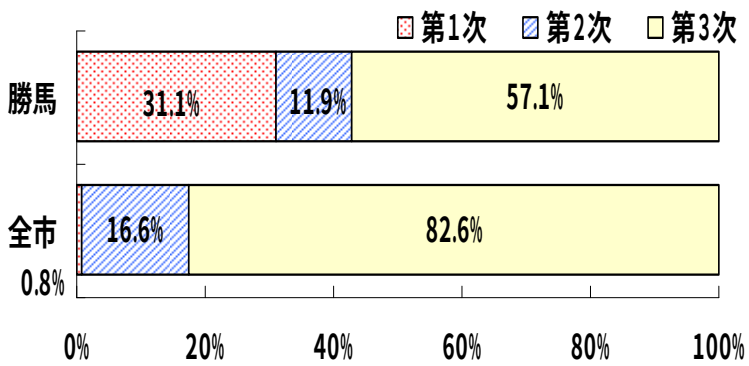


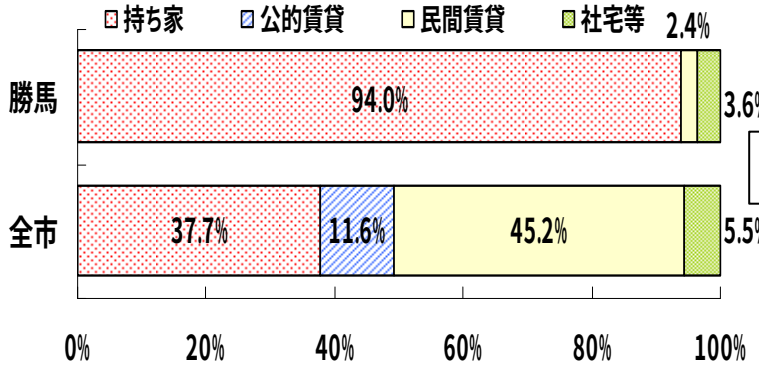
校区人口・児童数ともに減少傾向。

昭和46年
(福岡市編入時)

35名　3学級

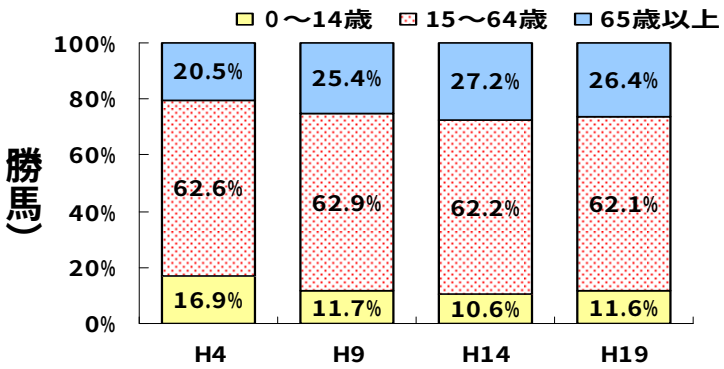
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

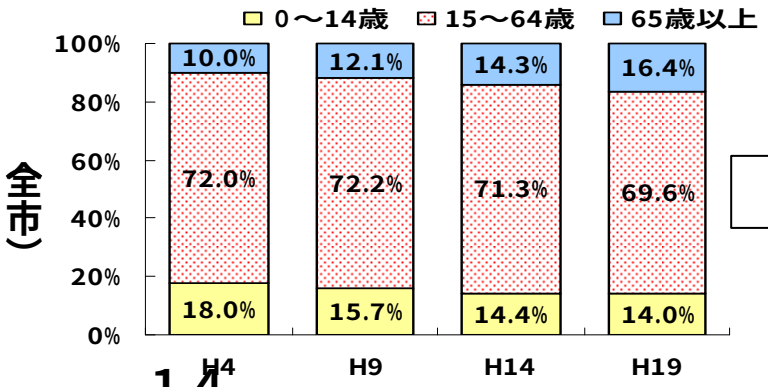




市全体に比べ，第1次産業・持ち家の比率が高い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体に比べ，少子・高齢化の傾向が顕著

3　小規模校の特徴(学校ヒアリングから)

○体育では球技や組み体操など実施できない種目が多い。

○運動会は地域と合同で実施している。

○複式学級は，二つの学年を交互に指導しなければならなかったりするなど課題も多い。

○子ども同士の信頼関係が崩れた時に，クラス替えで対応できないので，トラブルには早めの対処が必要である。

4　クラブ活動の状況

体育クラブ，英語クラブ，文化(伝承遊び･料理)クラブ

(参考) 18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○勝馬小学校･勝馬校区大運動会 (小学校は紅白で，地域は3つの組で競う)
○総合的な学習時間に地域の方を講師として，米作り，しめ縄作り，案山子作りを学ぶ。
○「勝馬を知ろう」という題目で生活科の授業に，椿油づくり，イチゴ作りについて学習。
○地域行事である「両宮祭」「風止相撲」「御神幸祭」に参加。
○校区の敬老会に児童が参加。
○体育館開放，校庭開放ともになし

6　防災施設の指定状況

勝馬校区　収容避難所及び地区避難所

２－２　志賀島小学校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	(男子)	4	―	7	2	7	5	25
	(女子)	5	3	1	5	7	7	28
		9	3	8	7	14	12	53
学級数		1		1	1	1	1	5

(2)学校の沿革

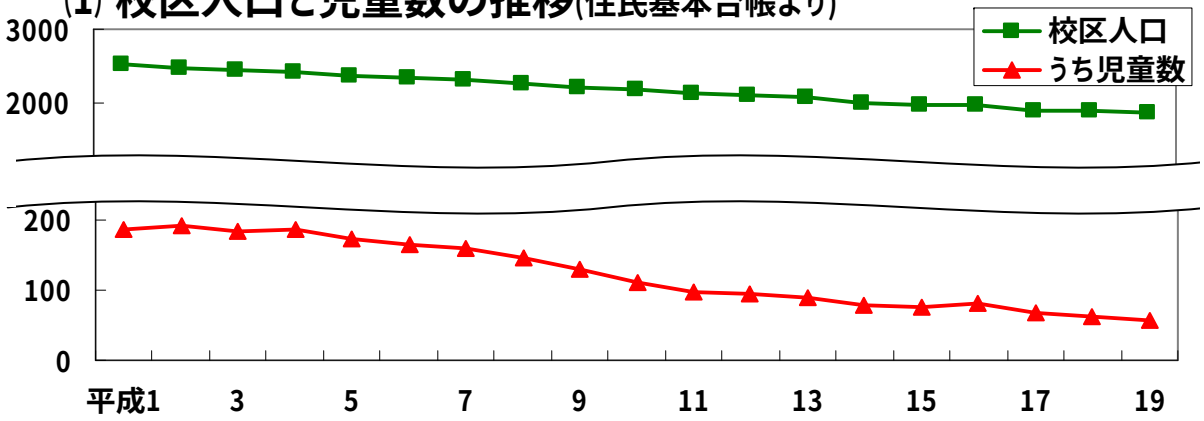
明治　8年　開校

昭和　6年　弘地区を勝馬小より編入

昭和46年　志賀町の合併により，福岡市に編入

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

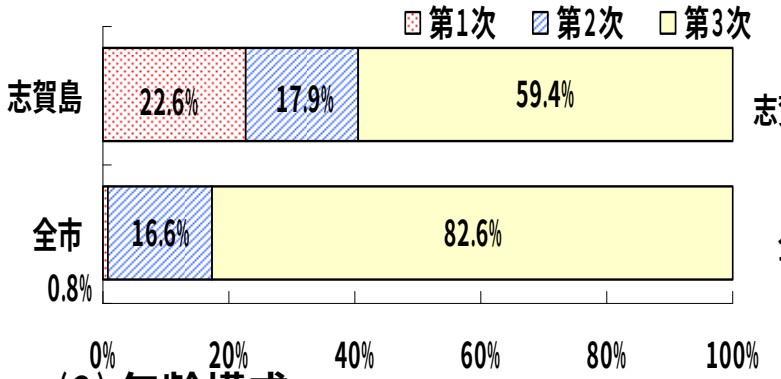


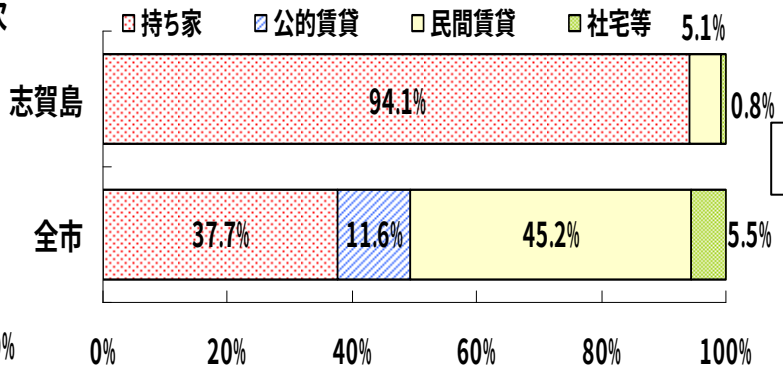
校区人口･児童数ともに減少傾向。

昭和46年
(福岡編入時)

245名　8学級

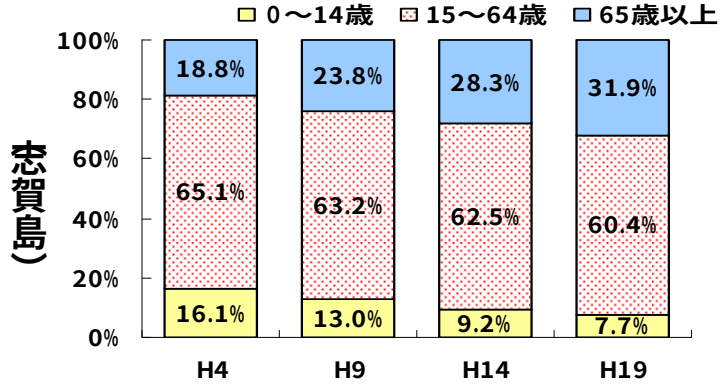
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

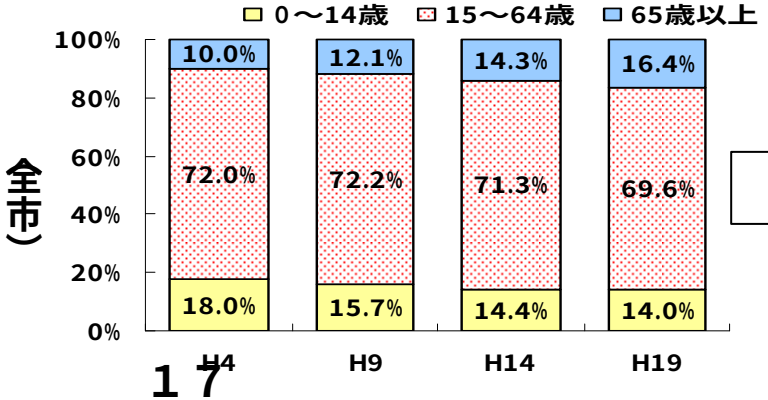




市全体に比べ，第1次産業･持ち家の比率が高い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体に比べ，少子･高齢化の傾向が顕著

3　小規模校の特徴(学校ヒアリングから)

○体育では球技や組み体操など実施できない種目が多い。

○卒業アルバムは，通常発注方法では負担が大きいので，児童や教員自身が撮影した写真を使い，印刷業者をインターネットで探して，手作りしている。

○クラブ活動の種類が少ない。

○子どもの対人関係に問題が生じた場合，クラス替えによる改善は期待できないため，トラブルには迅速な対応を行っている。

4　クラブ活動の状況

郷土クラブ，スポーツクラブ，文化クラブ　　(参考) 18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○校区演芸会に5・6年が参加
○海の子スケッチ大会に漁協が協力
○志賀盆唄踊りを地域の方が指導(4～6年)
○遠泳大会に地域の方が協力
○交流給食 (老人会の方を給食に招待し，共に食事をする)
○総合的な学習の時間に地域の方を講師として，干物づくり等を学ぶ
○地域にある志賀海神社の行事に参加
○体育館開放，校庭開放 (昼) 実施

6　防災施設の指定状況

志賀島校区　収容避難所及び地区避難所

２－３　西戸崎小学校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	計
児童数	（男子）	34	30	28	26	30	43	2	193
	（女子）	30	19	21	26	31	23	1	151
		64	49	49	52	61	66	3	344
学級数		2	2	2	2	2	2	1	13

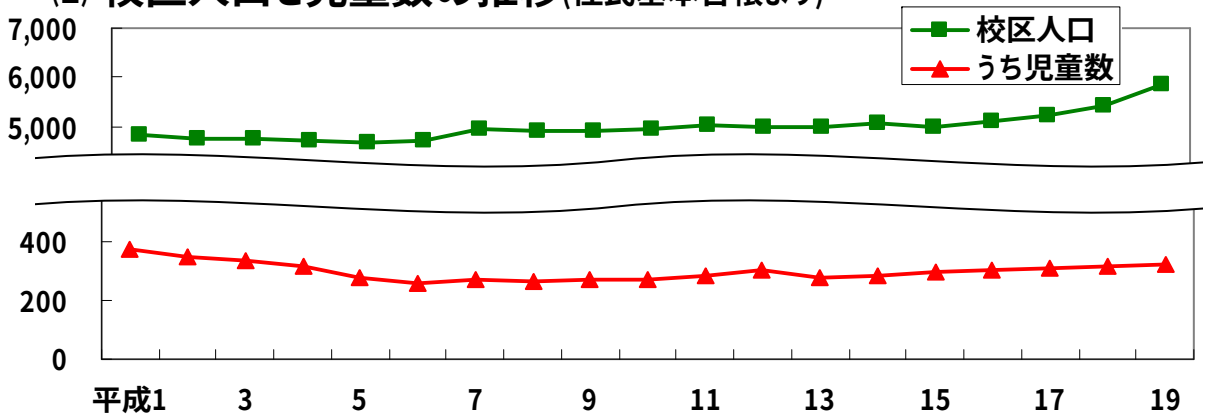
(2)学校の沿革

明治24年　開校

昭和46年　志賀町の合併により，福岡市に編入

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

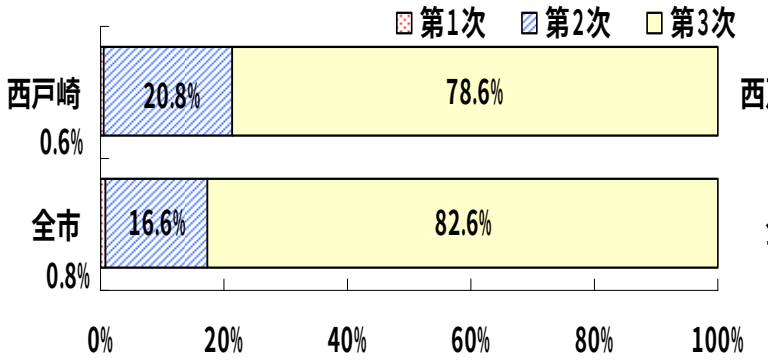


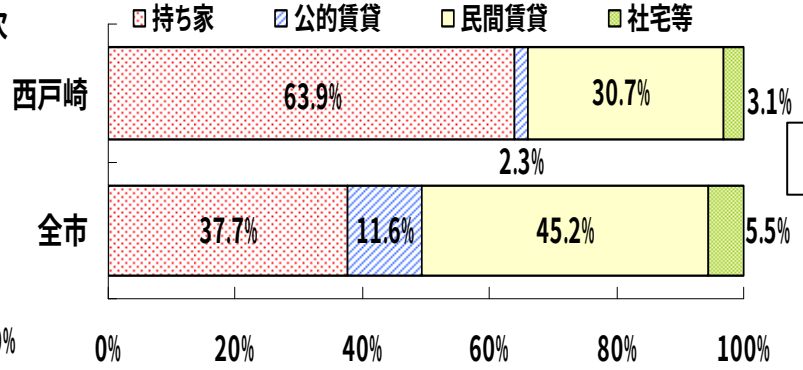
校区人口･児童数
ともに増加傾向。

昭和46年
(福岡市編入時)

415名　12学級

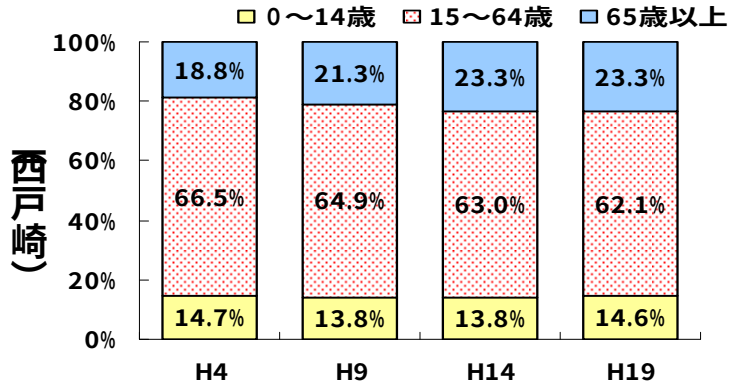
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

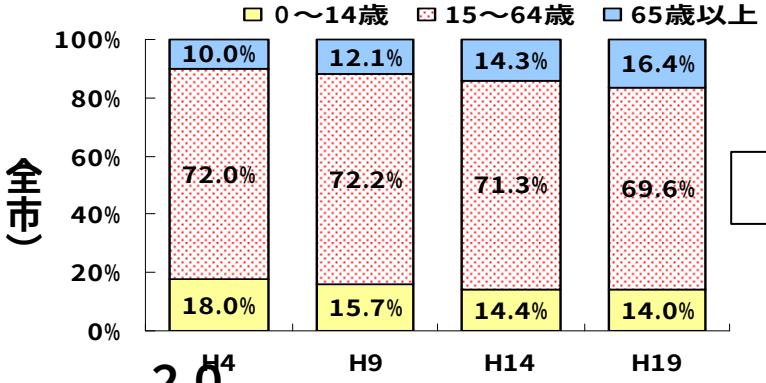




市全体に比べ,
持ち家の比率が高い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





15歳未満人口
の割合が増加。

２－４　志賀中学校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	特学	計
生徒数	（男子）	30	27	32	3	92
	（女子）	34	29	34	0	97
		64	56	66	3	189
学級数		2	2	2	1	7

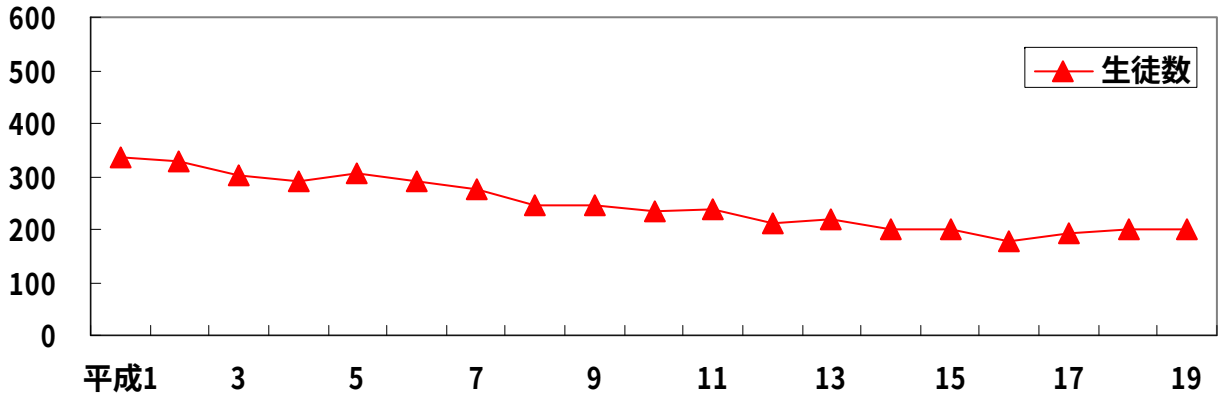
(2)学校の沿革

昭和22年　志賀島中学校として開校

昭和28年　志賀中学校と改称

昭和46年　志賀町の合併により，福岡市に編入

2　生徒数の推移



3　通学環境等

校　区　面　積	11.58km²
最 長 通 学 距 離	7.9km(バス通学)
校 区 内 の 小 学 校	勝馬小, 志賀島小, 西戸崎小

4　部活動の状況

野球(男子), バスケットボール(男子),
ソフトテニス(女子), ソフトボール(女子),
陸上(男女), 剣道(男女),
ブラスバンド, 英会話

(参考) 18学級規模の平均　：　18種類

３ - １　城 浜 小 学 校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	計
児童数	（男子）	21	12	17	19	12	25	2	108
	（女子）	17	20	22	20	19	24	2	124
		38	32	39	39	31	49	4	232
学　級　数		2	1	2	1	1	2	1	10

(2)学校の沿革

昭和46年　千早小, 名島小から分離新設

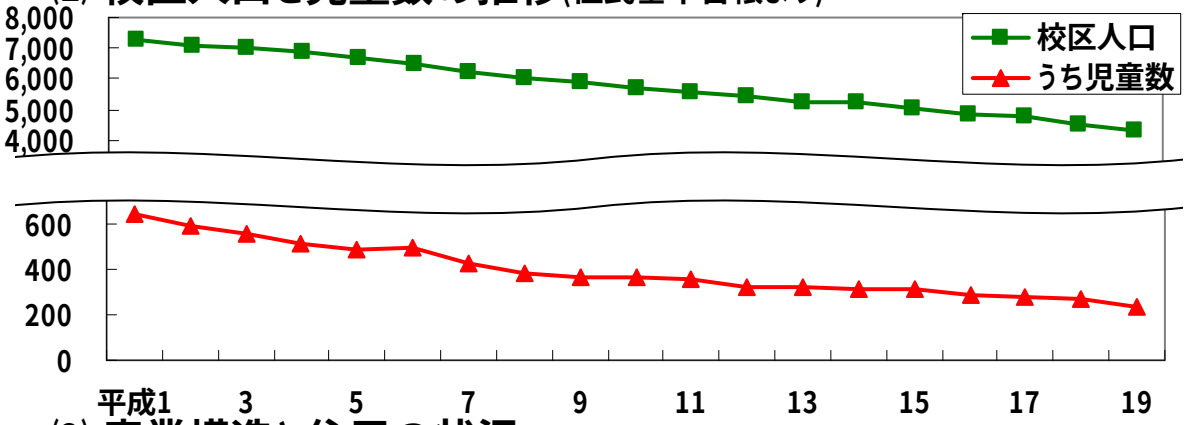
※城浜団地(昭和45年～入居開始, 約2,000戸)開発のため

※分離前(昭和45年)の母体校の状況

千早小：1,344人／34学級　　名島小：1,520人／37学級

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

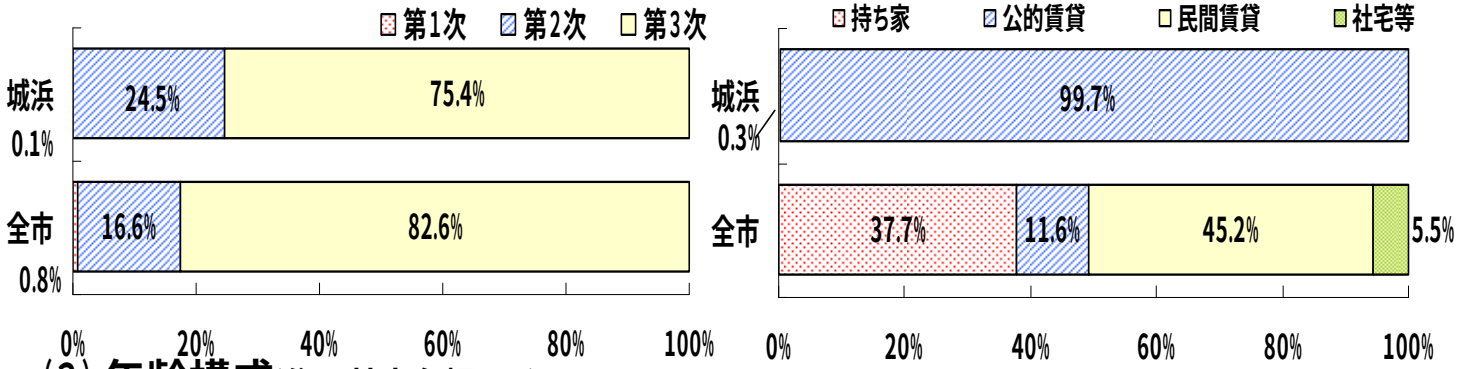


校区人口･児童数ともに減少傾向。

昭和57年
(香椎浜小分離直後)

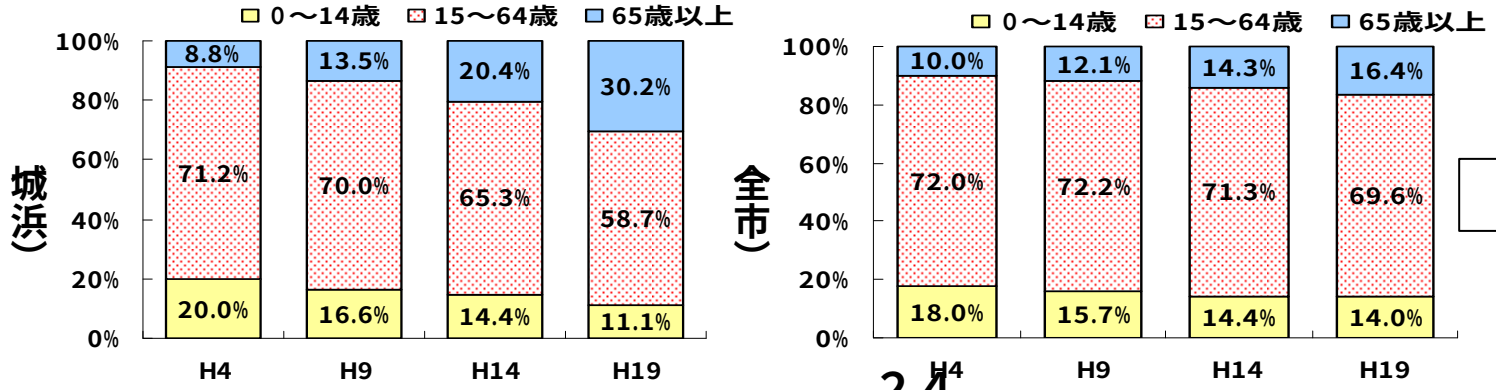
1,493名　37学級

(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)



校区の全域が公営住宅

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)



市全体に比べ，高齢化の傾向が顕著。

3　小規模校の特徴（学校ヒアリングから）

○半数以上の児童が，同じ保育園出身で小さい頃から固まった人との繋がりの中で生活しているため，外との交流は希薄である。

○多様なグループ分けが困難であり，適度な刺激を受け，切磋琢磨する機会が乏しい。

○体育やクラブ活動ではチーム数が確保できないため，種目に制限がある。

○クラブ活動などでは，集団で行う球技は実施が難しい。

4　クラブ活動の状況

屋外スポーツクラブ，屋内スポーツクラブ，卓球クラブ，
パソコンクラブ，調理クラブ，伝統文化クラブ，
イラスト・まんが・読書クラブ，ダンスクラブ

（参考）18学級規模の平均　：　11種類

5　小規模校と地域の関わり

○校区環境美化活動に参加
○年2回の校区自主防災訓練に児童100名ほどが参加
○運営委員8名の児童が，校区敬老祝賀会に参加
○総合的な学習の時間，生活科の講師に地域の方を招く
○老人クラブの方から，農作物作りや囲碁・将棋クラブの指導を受ける
○体育館開放，校庭開放（昼）実施

6　防災施設の指定状況

城浜校区　収容避難所及び地区避難所

３－２　香椎浜小学校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	（男子）	26	27	23	26	32	30	164
	（女子）	34	21	28	33	34	23	173
		60	48	51	59	66	53	337
学　級　数		2	2	2	2	2	2	12

(2)学校の沿革

昭和58年　城浜小から分離新設

昭和62年　千早西小新設のため一部分離

平成 4年　香陵小を分離

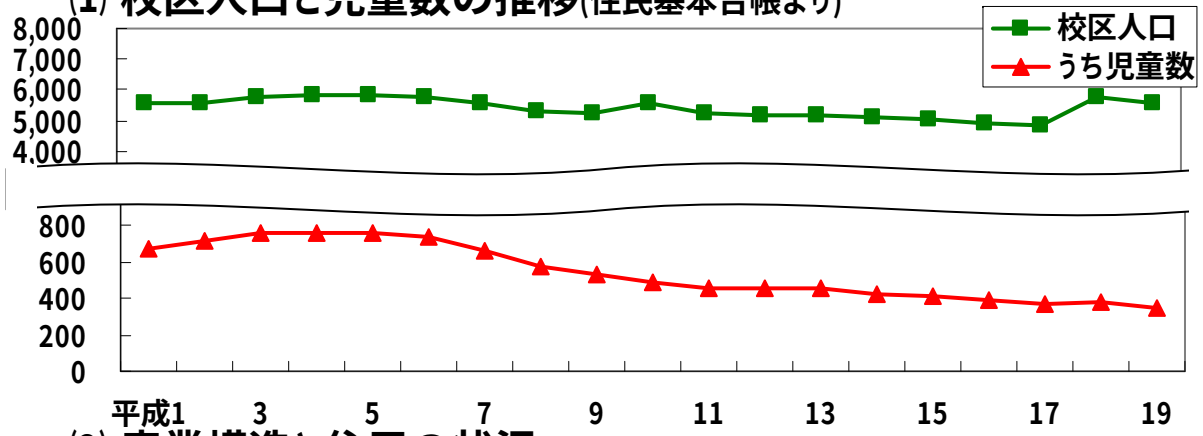
※香椎浜ニュータウン(昭和57年～入居開始，約7,000戸)開発のため

※分離前(昭和57年)の母体校の状況

城浜小：1,493人／37学級

2　地域の特性

(1) 校区人口と児童数の推移(住民基本台帳より)

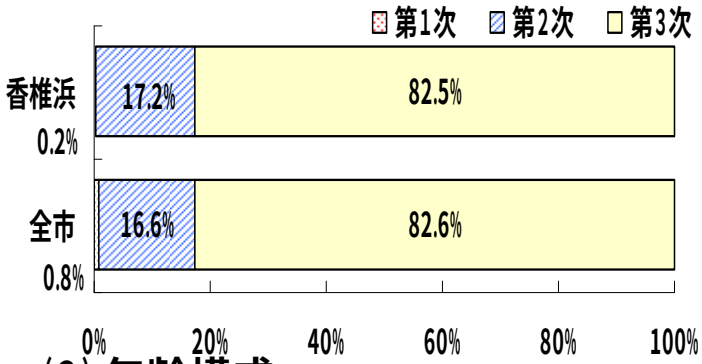


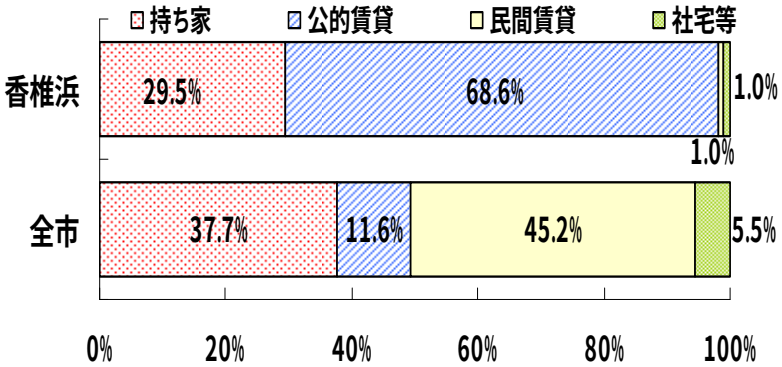
校区人口は増加しているが，児童数は横ばい。

平成4年
(香陵小分離直後)

763名　22学級

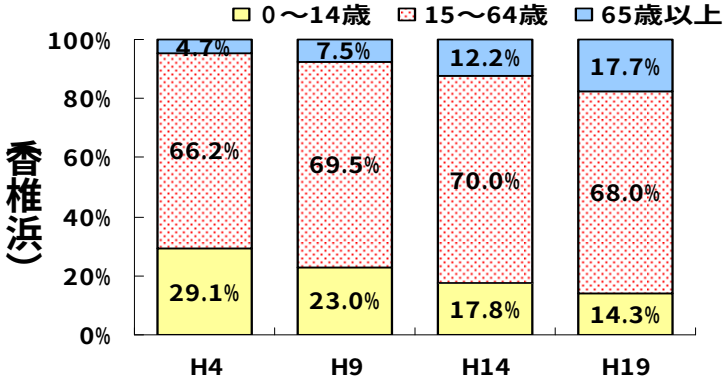
(2) 産業構造と住居の状況(平成12年度国勢調査より)

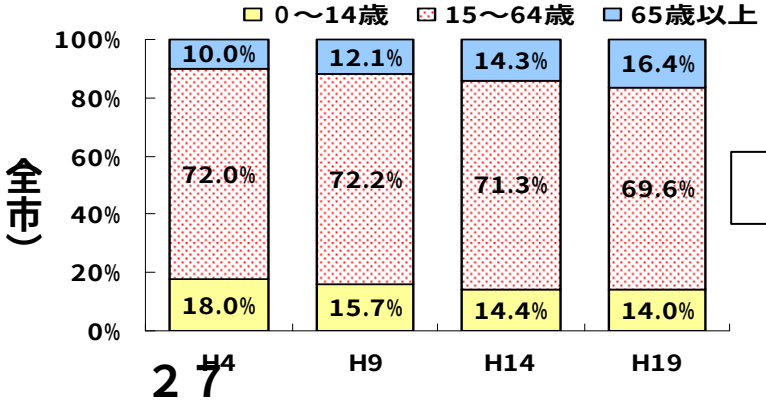




公営住宅の割合が高い

(3) 年齢構成(住民基本台帳より)





市全体とほぼ同じ傾向

３ - ３　城 香 中 学 校

１　学校の概要･沿革

(1)平成20年度学級編制

		1年	2年	3年	計
生徒数	(男子)	46	56	63	165
	(女子)	44	57	43	144
		90	113	106	309
学　級　数		3	3	3	9

(2)学校の沿革

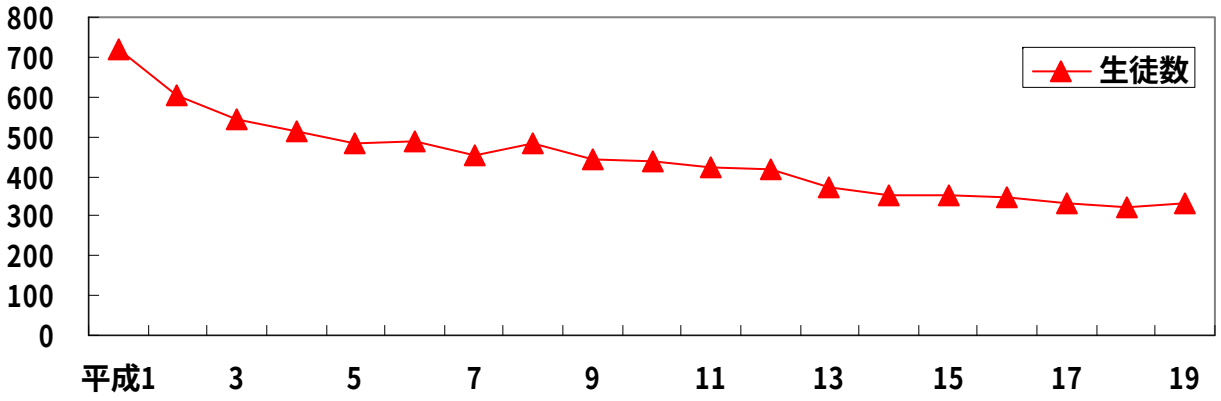
昭和59年　香椎第１中から分離新設

※香椎浜ニュータウン(昭和57年～入居開始，約7,000戸)開発のため

※分離前(昭和58年)の母体校の状況

香椎第１中：1,070人／25学級

2　生徒数の推移



3　通学環境等

校　区　面　積	3.16㎢
最 長 通 学 距 離	0.8km
校 区 内 の 小 学 校	城浜小，香椎浜小

4　部活動の状況

野球(男子)

バレーボール(男女)，バスケットボール(男女)，ソフトテニス(男女)，卓球(男女)

ブラスバンド，美術

(参考) 18学級規模の平均　：　18種類

各　地　域　の　特　性

	舞鶴中校区 (大名小，箕子小，舞鶴小)	志賀中校区 (勝馬小，志賀島小，西戸崎小)	城香中校区 (城浜小，香椎浜小)
校区の特徴	**(箕子・舞鶴小校区)** 校区人口は増加傾向にあるが，児童数は増加していない。 ←地価が高く，供給される住宅も高額なものが多い **(大名小校区)** 校区人口・児童数ともに減少傾向。	**(勝馬・志賀島小校区)** 校区人口・児童数とも減少傾向。 ←市街化調整区域で新たな住宅建設が制限されており，人口の転入が少ない。 **(西戸崎小校区)** 住宅開発が進み，校区人口・児童数は増加傾向にある。	**(城浜小校区)** 校区人口・児童数とも減少傾向。 ←校区全体が公営住宅であり，住民の高齢化が進んでいる。 **(香椎浜小校区)** 校区人口が増加傾向にあるが，児童数は増加していない。 ※今後大規模な住宅開発が予定されている。
小規模化の経緯	大名小(明治6年開校) →箕子小分離(大正元年) →舞鶴小分離(昭和35年) ※児童数の増加により分離。 →それぞれが小規模校化。	勝馬小(明治9年開校) 志賀島小(明治8年開校) ※福岡市に編入された昭和46年時点で，すでに小規模校。	昭和46年　千早・名島小から分離 ※団地開発に伴い新設 →団地の年齢構成の変化とともに，小規模校化。
通学環境	**(最長通学距離)** 小：約1.7km，中：約2.5km **(特徴)** 交通量の多い道路を横断する場合が多い。	**(最長通学距離)** 小：約2.7km，中：約7.9km **(特徴)** 一部の児童生徒はバスを利用している。	**(最長通学距離)** 小：約0.8km，中：約0.8km **(特徴)** 通学路は，ほとんどが団地内。
教育上の課題	・人数が少なく多様な意見が出にくいため，学習内容の深まりや広がりが難しい ・体育では実施できない球技がある ・クラブ活動などで複数の候補から選択するという行為ができない　　など， **児童生徒数が少ないままでは解決しない課題は，地域の特性にかかわらず共通。**		